

ヒブ、肺炎球菌、HPV ワクチンが定期化に

2013.04.01

新学期を迎えて子供たちはみんな新しい世界の旅立ちに心ときめいていることと思います。インフルエンザの流行もさほどではなく、しっかりと休んで登校・登園することが、どれだけ病気の蔓延を防ぐのか本当にわかった冬でした。

新年度になり、子供たちのワクチンは大きく様変わりしようとしています。これまで行っていた、中学1年生、高校3年生に対する麻しん・風疹混合ワクチンの接種が終了しました。しかし、現在、東京、大阪では30代40代男性の風疹が流行しています。これから妊娠を希望している女性、回りにいる男性含め、ワクチンの接種が不確かな人はワクチンをして流行が北上するのに備えて下さい。風疹ワクチンは品薄です。二十歳以上の方は麻しん・風疹の2回接種をしていない人が多数いるものと思われますので、これから生まれてくる子供たちのためにも、混合ワクチンをするをお勧めします。

ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、HPV（子宮頸がん予防）ワクチンが4月から定期接種化になりました。ヒブワクチンは4回目にあたる追加接種が3回目終了後7～13ヶ月の間に限定されるようになりましたので、1歳を過ぎてすぐ行う麻しん・風疹混合ワクチンと同時に接種することがおすすめです。同時に肺炎球菌ワクチンもできると病気に備える力が増します。

生後3ヶ月から6ヶ月未満で行っていたBCGワクチンが1歳未満までになりました。これは、BCGワクチンの副反応である骨炎（骨髄炎・骨膜炎）の発生が3ないし4ヶ月といたった早期に接種した子供たちに多く発症していることを否定出来ないため、5ヶ月から8ヶ月未満を推奨期間として、接種を行うとするものです。通常は、三種混合ないし四種混合ワクチンが終了したあとに接種を行うことになると思います。

BCGを最初にとっている方が医療関係者を含めて未だに多いので、頭の中の訂正をお願いします。